

会報

みらい

目次	p.1・「顔の見える関係」の中で
	・五季の心を ・育てて頂いた使命
p.2・「湘南アフタケア協会」	施設紹介と地域貢献活動について
	・「精陽学園」一人暮らしの高齢者へのお弁当サービス ・「日本は一つ、地域も一つ」今年は「つながりの海」をテーマに恒例の納涼祭が開催されました。

発行人：神奈川県身体障害施設協会 代表者：田中 誠一

「顔の見える関係」の中で

6月1日付で神奈川県の障害サービス課副課長に着任しました大澤です。

貴協会会員の皆様におかれましては、日ごろから本県の障害福祉の向上に多大なるご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、私事です。5年ぶりに障害福祉主管課勤務となりました。

振り返ると、障害福祉施策が、措置制度から契約制度（支援費制度）に移行した平成15年4月、施設、事業所の皆様や市町村職員と、何度となく話し合いながら、利用者との契約、事業者指定、支援費の電子請求など、大きな制度改革を乗り切ったこと、また、落ち着く間もなく、平成18年10月には障害者自立支援法が施行され、報酬体系の見直しや新体系サービスへの移行に皆様と頭を悩ませたこと、その後の、特別対策事業、プログラム大綱の策定など、激動の日々が思い出されます。

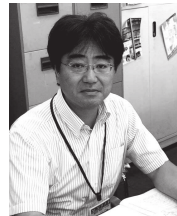
しばらく障害福祉を離れている間に、障害者の差別禁止や社会参加の取り組みが進められ、障害者総合支援法、障害者差別解消法が成立し、障害者権利条約が批准されるなど、大きな転換期を迎える一方で、県で

は緊急財政対策における県有施設や補助金の見直しを行うなど、その後の環境の変化も改めて認識したところでした。

しかし、どんな環境下においても、皆様と私達行政は、障害者本位の取組みに力を注いでいくことに変わりはなく、再び、貴協会の皆様と顔の見える関係の中で、障害者の自立及び社会参加の促進等に取り組んでいけることに期待を抱いております。

最後になりましたが、既にご案内のとおり、県では平成27年度からの3年間を計画期間とする「神奈川県障害福祉計画（第4期）」を策定しました。この計画の「ひとりひとりを大切に」という基本理念の具体化と「ともに生きる福祉社会かながわ」の実現に向け、今後とも、貴協会の皆様のご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

神奈川県保健福祉局福祉部障害サービス課 副課長 大澤 靖史



五季の心を

身体障害施設協会が発刊する広報誌「みらい」の原稿依頼をいただき、7月に書き始めましたが連日の雨です・・・。

近年は、温暖化によるものか雨による水害も多くなっており、7月は雨の季節です。街なかにある事業所や施設では聞くことが無いでしょうが、場所によっては蛙の合奏が喧しい程の地域もあるのではないですか。日本には春夏秋冬に梅雨期を加えて五季の国であると言う人もいます。この雨の季節は際だった特徴的な時期ではないでしょうか。はじめじめとしてうっとうしいと感じる人、「田植え後の水田に降る雨や雨に濡れて美しさを強調している紫陽花」を見て、日本の情緒とを感じる人もいます。

そうそう、「みらい」が発刊されるのは10月頃とのことですから季節感が違いますね。



南北に長い日本列島は毎年、南から木々が芽吹き花の春や緑の春を迎え、高温多湿な梅雨期を通過し、綿菓子のような入道雲が絵になる酷暑の夏を過ぎると、大雪山系の山々から紅葉・黄葉の知らせとなり、秋の訪れを楽しんでいる間に街路樹の落ち葉が舞いはじめ、北国からは初雪の便りが届きます。このように、五季の国であるからそれぞれの季節感を目で楽しみ、肌で感じる心豊かな国民になったのではないのでしょうか。

私達も、支援職員である前に人として感情の起伏がありますが、利用者支援の場においてはプロ意識に培った、「清き・強き・深き・広き心で」各施設・事業所の担い手としてバトンをつないでまいりましょう。

神奈川県身体障害施設協会 会長 田中 誠一



育てていただいた使命

この度「みらい」に投稿させていただく事となり、心より感謝申し上げます。

みのりの家は、27年前の平成元年に、夫とともに我が家を開放して始めた本当に小さい場でした。重複した障害をもたれながらご家族とともに懸命に生きてこられた青年達お二人と出会い、日中だけでしたが、ともにゆっくり日常生活を楽しめる場をもてた事が本当に喜びでした。

そしてその場に一人二人と通いたい方が集まってくださり、平成19年に社会福祉法人となりました。現在は身体や知的、そして精神の障害をもたれた方々や難病で医療的ケアを必要とされている方々が、35名通所され日常生活をすごされています。



開所当初から、ずっと大切に続けてきたことは「人は生まれたてきたこと、生きていることが本当に素晴らしいことだから、もうそのことでじゅうぶんなので、二度と来ない尊い今を大切にしましょう」ということです。このあり方に沢山の方が共感してくださりました。今は亡き大先輩の方達が、みのりの家を知り、「人と人を比べる必要も無く、優劣を評価する意味など存在しない場を続けてください」と優しく励まし応援して下さったことが、大きな支えとなり今があります。

そして今、グループホームの立ち上げに若いスタッフとともに邁進しております。

未来に向けて、命有る限りこの頂いた使命を果たし、次世代の方にバトンタッチしていきたいと思っております。

社会福祉法人ビー・ハッピーみのりの家 施設長 渡邊 美佐緒

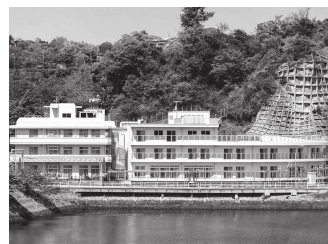
各施設の取り組み テーマ：「社会貢献活動について」

…………… 「湘南アフタケア協会」施設紹介と地域貢献活動について ……………

戦後、当時「不治の病」とされた結核罹患者の病後の社会復帰施設として当法人が創立されました。その後、結核回復者だけでなく、呼吸器機能障害や心臓機能障害、腎臓機能障害などが内部障害として身体障害者に加えられる中、内部障害者の更生施設としてその役割を果たしてきました。当時は、全国的にも内部障害者を受け入れる施設は少なく、利用者も地域（横須賀市）の人達というよりも市外県域、あるいは県外からの利用者も多くいらっしゃいました。内部障害者として、在宅酸素療法や人工透析など医療的依存度が高く自己管理の難しい方を施設で支援して来ましたが、在宅医療の充実により施設を利用する数が年々少なくなり、今は地元横須賀市を中心にした肢体不自由者の利用が多くなって来ています。建物も内部障害者の利用目的に建てられて来たので、車椅子や杖を利用する肢体不自由者の為の建物とはいええない状態でした。平成25年に県及び市の耐震化



整備事業の補助金により建替えを行い、耐震化と同時に念願のバリアフリー化も図ることができました。立地はまさに軍港横須賀というべく、目の前には海上自衛隊の艦船が日章旗を翻らせ停泊しています。こんな施設ですので、ぜひお近くにお越しの際は見学にでもお立ち寄りいただければ幸いです。



地域貢献活動としては、施設周辺の吸殻拾いや地域消防団への参加などを行っています。その一環として、最近、横須賀市が始めた事業で「社会的居場所づくり貢献事業所」のエントリーをさせていただきました。基本的には、ひきこもりの人で一般就労が困難な生活困窮者に就労体験の場を提供します。施設での就労体験を通じて、社会生活への自信を取り戻していただければと思っています。

神奈川後保護施設 施設長 加藤 尚

…………… 「精陽学園」一人暮らしの高齢者へのお弁当サービス ……………

精陽学園では、昭和60年頃から平塚市城島地区民生委員児童委員協議会と連携して、一人暮らしの高齢者にお弁当を作っています。定期的な安否確認やお話し相手、健康の維持にもつながることとして、年に8回、一回当たり26食ほど依頼を受けています。

私が献立をたてる時に気を付けていることは、第一に「旬の食材を使う」事です。旬の食材は味が濃くておいしく、栄養価も格別です。最近では、ハウス栽培や養殖などもありますが、地元で採れた新鮮な野菜など、本来の収穫時に採れた物を食べるのは、私たちの体調や身体のバランスを整え健康を保つためにも大切なことなのです。

第二に「食べやすい」事です。お弁当の内容はたくさんの種類の物を少しずつ召し上がっていただきたく、10品の献立構成にしています。調理の際は、1品の大きさを高齢者の一口サイズに切る、隠し包丁を入れる、柔らかく、飲み込み易く、肉魚をしっとり柔らかく仕上げる為に手間かけています。味付けの仕方も、だし汁を上手く利かせ、1日の塩分摂取量を考え、優しさを感じる味付けを心掛けています。

第三に「目でも楽しめる」事です。蓋を開けた時に、色鮮やかなおかずやご飯などが入っていれば、自然とお腹も空いてきて、食欲をそそられ、笑顔になります。また、旬の食材は四季を感じさせてくれます。青もみじを炊き合わせの横に添えたり、彩豊かな食材をふんだんに使って、賑やかなお弁当になるように心がけています。

これからも、配食弁当を食べていただくことで、お腹を満たすだけでなく、食べる喜びや幸せ、楽しみなど、心に潤いを与えられるお弁当作りを目指していきます。 精陽学園 調理員(栄養士) 吉永 流香



…………… 『日本は一つ、地域も一つ』

今年は「つながりの海」をテーマに恒例の納涼祭が開催されました。……………

東日本大震災から4年半がたちましたが、シャローム浦上台では、復興支援のために何かできないか～ということで、毎年、岩手の作業所から手作りの品を買い取り、納涼祭で販売してきました。今年は5年目に向けて、せめて観光を兼ねて岩手から横浜・横須賀に遊びにきませんか～ということで、「アトリエSun」作業所のご利用者として職員4名をご招待させていただきました。

宮古駅を出発し、横須賀まで片道7時間の長い道のりなので、2泊3日で横浜も観光させていただきました。当日の納涼祭会場では作業所

手作りのお菓子の販売をしていただきましたが、幸い、地域の皆さんの応援のおかげで売完となり、岩手の作業所の方々にも良い報告ができること喜んでいただく事が出来ました。

当日は、地元横須賀市の出身で復興大臣政務官の小泉進次郎氏にもおいいただき、励ましのお言葉をいただいたり、一緒に販売のご協力をいただいたり、記念写真も撮らせていただいたりしました。岩手の方々だけでなく、地元横須賀地域の方々にも、思い出に残る素晴らしい会となったと思います。

また、そののちには、横須賀市長の吉田雄人氏も見え、お二人の握手の場面が見られ、拍手もおこりました。小雨が降ったりやんだりのあいにくのお天気でしたが、開催時間だけはシャローム浦上台の周りは雨も止み、地域一体となって協力する「つながりの海」にふさわしい納涼祭になりました。

シャローム浦上台 施設長 宇都宮 明子

